

第三回館山市議会议定例会议録（第三号）

一、昭和五十四年九月六日（木曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 三十名

| | |
|------------|------------|
| 一番 神田 守隆 | 二番 石井 謙 |
| 三番 綱島 憲治 | 四番 横溝 功 |
| 五番 福原 勤 | 六番 鈴木 活龍 |
| 七番 古賀 礼四郎 | 八番 石井 昌治 |
| 九番 松下 正己 | 一〇番 穴戸 寿夫 |
| 一番 林 豊 | 一二番 栗原 一雄 |
| 一三番 近藤 好雄 | 一四番 渡辺 昭夫 |
| 一五番 伊藤 幸太郎 | 一六番 押元 稔 |
| 一七番 黒川 平治 | 一八番 流山 源次郎 |
| 一九番 石井 輝久 | 二〇番 石井 武敏 |
| 二一番 吉田 勇治郎 | 二二番 藤田 益治 |
| 二三番 菊井 敏博 | 二四番 和田 一郎 |
| 二五番 五十嵐 昇 | 二六番 伊賀 多朗 |
| 二七番 石井 正 | 二八番 安沢 徳順 |
| 二九番 安西 益男 | 三〇番 山口 康 |

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十四年九月六日午前十時開議

日程第二

議案第三十九号

非常勤特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第四十号

館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例を廃止する条例の制定について

議案第四十一号

館山市福祉作業所の設置及び管理に関する条例の制定について

議案第四十二号

館山市国民健康保険財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について

議案第四十三号

土地改良事業の施行について

議案第四十四号

館山市中里地区土地改良事業分担金徴収条例の制定について

議案第四十五号

昭和五十四年度館山市一般会計補正予算（第一号）

議案第四十六号

昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第四十七号

昭和五十四年度館山市国民宿舎特別会計補正予算（第一号）

議案第四十八号

昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

認定第一号

昭和五十三年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和五十三年度館山市国民健康保険

特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和五十三年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第三 認定第四号

昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和五十三年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和五十三年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

日程第四 請願第三号

請願書

開

議 午前十時開議

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数二十七名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第一、議案第三十九号ないし第四十四号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

二〇番石井武敏君。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

二〇番（石井武敏君） 私は議案の四十一号と四十二号について御質問をいたします。

まず、議案四十一号についてでございますが、これは館山市内の湊四百三番地に館山市福祉作業所を建設して、市内の在宅心身障害者特に精薄児童に関して社会生活における適応性を高めようとその指導を行い、その自立助長を図ろうとするものでありますが、その趣旨においてはまことにすぐれたものを持っていると思われまして、この作業所の持つ社会的な働きがより一層合理的に、かつ円滑に運用されますよう、なお幾つかの内容の面に触れながら質問をいたしたいと思います。

まず、この作業所で行う内容であります。これは指導をする作業、仕事の内容というものはどういふものかを質問いたします。

この条例を見ますと、第三条の業務の要綱の中には「一、生活の指導、二、作業の提供及びその技術的な指導、その他この条例の目的を達成するための業務」としてありますが、「生活の指導」とは具体的にどういふ内容か。「作業」とは具体的に何をさすのか。また「技術的な指導」とある「技術」とは何をさしているのか、その点の説明を求めます。

次に、議案の四十二号についてであります。この基金の設置は地方自治法の第二百四十一条の規定に基づいて設置をしようとするものであると思われしますが、二百四十一条には「普通地方公共団体は、条例の定めるところにより、特定の目的のために財産を

維持し、資金を積み立て、又は定額の資金を運用するための基金を設けることができる。」というふうにあります。これは昭和三十八年の法改正によりこの基金制度が設けられたと思われ、さて、国保制度を含めた全保険制度間の加入者負担の格差が最近では著しく、特に国保加入者の個人負担が増大してきている現状を踏まえ、国保の余剰金を備蓄し、それを国保会計に充てて効率的に運用しようとするものでありますが、これはいままで国保会計の独立採算を主眼としてきました当市にとつては、一般会計の繰り入れも、こうした財政基金の運用のなかつた当市にとつては、一歩前進した基金制度であると私は考えますが、今回の質問といたしましては、今後のこの制度の運用についてお尋ねしたいと思ひます。また国保会計の今後の、将来の展望としての市長の所見をお伺いするものであります。

さて現在、県内において国保会計に一般会計から繰り入れている市は十六市、そうしてこの提案されております基金制度が設けられております市が十七市、そうして一般会計からの繰り入れ、そうして基金の制度を両方併用している市が九市あります。

館山市は、いままでどれも行われなかつた傾向があるわけでございますが、県内を見ましても、この基金制度の一般会計からの繰り入れもともに行わない市は館山市と鴨川市のみでございます。

また、国保会計の内容を見ますと、どの市におきましても老人医療費にかかわる部分がかなりのウェイトを占めております。この老人医療費に關しましては、別建て方式が示しておりますように、老人医療は全國民的義務によつて支えられていくのが望ま

いと思ひますが、当市におきましても一般会計からの繰り入れをせめて老人医療費の別建て方式が法制化されるまでの間は繰り入れの措置をされるように要望申し上げるものでございますが、その点に關しての市長の御所見を同時にお伺ひしたいと思ひものであります。

以上、御質問します。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

福祉作業所の作業の内容でございますけれども、これは対象になる方々が身障者あるいは精薄者等でございますので、そうしたことからきわめて簡単な作業というふうに考えております。現在予定されております作業は貝細工とか、割りばしの袋入れとか、ボールペンの箱入れ等の軽作業を考えているところでございます。国保会計における調整基金条例の制定でございますけれども、これは國民健康保険事業の健全な発展に資するため、地方自治法第二百四十一条の規定に基づいて設置をしようとするものでございます。

國民健康保険特別会計の場合、支出の大宗を占めるのが保険給付費でございます。予測困難な医療費の動向に左右されるといふことで、その財政運営には大変な苦労があるわけでございますけれども、近年の医学、医術の進歩や医療保障の充実、加えては恒定期的に行われる医療費改定による支出の増の現況を踏まえ、今後さらに長期的な視野のもとにおける健全な財政運営を確保しようとして、この基金を設定しようとするものであります。

老人医療費の別建てまでの間、一般会計から繰り入れたらどうかというお話ですが、いまの国民健康保険がきわめて各市とも困難な状況にあることは御案内のとおりでございますが、これというのまたいまの国の健康保険制度そのものの矛盾がすべてと申しますか、特に国保会計にしわ寄せがきているわけでございます。

特に、御指摘の老人医療費の問題非常に大きな問題でございます。これはすべての地方自治体が政府に働きかけまして、老人医療費の別建てを実施するようにお願いをしているところでございますが、なかなか実現をみないのは残念なところでございますが、そういう意味も含めまして、と同時に保険税がそろそろいまいのような状態では限界にきてはいはないか、そんなような矛盾を感じるわけでございます。そうしたことを踏まえまして、長期的な視野に立ちまして健全財政を運営するように今後考えていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君）　ただいま御答弁をいただいたわけでございますが、なほ何点かにわたりまして再び質問を申し上げたいと思うものでございます。

初めに四十一号についてですが、これはただいま説明がありましたように、作業は非常に簡単な作業であるという説明でございました。この条文を見ますと、いわゆる入所資格第五条でございますが、第五条の一号これは年令が十五歳以上であること、作業能力があることというふうにあるわけですが、ただいまの御説明のように実に簡単な作業を、初歩的なものから始めるわけでござ

いますので、作業能力があるかというところは非常に微妙なところだと思えます。どの程度が作業能力としてあるかないかという判断は非常に幅があるし、微妙なところだと私は思いますが、この業務の中の第三条にも第一号に生活の指導をするということでありつてありますが、ということになりますと、生活の指導を兼ねた作業内容ということになりますと、非常に作業能力が低下していても、そういう人に教えていくという立場も考えられますので、このへんのあり方といえますか、作業能力のある人、作業能力のない人、このへんの限界といえますかがよくわかりませんので御説明いただきたいと思うわけですが。

それから、条文の六条の二項の入所を許可しないものの中に、「福祉作業所の管理運営上支障があると認められるとき」そういうふうにあります。これは具体的にどういうことをさしているのか、ちよつと理解できませんので御説明願います。

なぜ私がこういう質問をするかといいますと、この条文は七条の最初の条文と関連があるわけでございますので、それでこの点の質問をするわけでございます。

また、次に五条の規定を見ますと、市内に居住して、通所することが可能であるものということがあります。これは入所日のことでありましようが、これはいわゆる入所した者を退所させることができる、その条文とも関連が出るわけでございますが、入所している者が家庭の事情で近隣町村に移った場合、この条文の解釈はどのようになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。それから、四十二号の基金制度についてでございますが、第三条の「基金に属する現金は、金融機関」にとありますが、「金融

機関」とはどのような金融機関をさすのか、御説明を求めます。

それから、第四条の「基金の運用から生ずる収益」というのはこれは何か。これはこの基金を預けて置く金融機関の利息であるかどうか。そこを御説明願いたいと思います。以上。

○民生部長（鈴木 力君） お答えを申し上げます。

第一点の福祉作業所の入所要件からいえます作業能力のある者ということでございますが、この限界につきましては、現在考えておりますのは、入所対象者が心身障害者特に精薄者が主体でございますので、ある程度の作業能力のある者というふうなことで考えておるわけでございます。

現在、八名の入所希望者があるわけでございますが、その方々の障害の程度を見ますと、六名が重症ということでございます。あとの二名が中症程度の障害者でございますので、作業能力といえしまでもある程度作業能力がある者というふうなことで考えております。全く作業能力のない者については当然入所させるわけにはまいりませんので、このへんにつきましては十分慎重に考えていきたいと思うわけでございます。

次に、第六条の二項の關係でございすけれども、通所可能の者が入所の要件でございすけれども、この方々が転出あるいは転居した場合にはどうかということでございますが、一応新住所から通所あるいは生活環境の変化等、その他推定できない問題が生じてくると思われますので、事例が発生した時点におきまして慎重に対処してまいりたいと思うわけでございますが、特に本人の意志等も尊重しながら、この問題につきましては今後検討してまいりたいと考えております。

それからなお、作業能力がございしても、精薄患者の中には発作的症状等も考慮されますので、このような点からも入所につきましては慎重に対処してまいりたいと思うわけでございます。

それから、四十二号議案の關係でございすますが、第三条の「基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により管理しなければならぬ。」ということでございます。その金融機関と申しますのは市の指定金融機関というふうに考えております。ただいまお答え申し上げました市の金融機関の中には収納機関とか、あるいはまた市内にございす各金融機関すべてを指しまして、その中から基金として適当な金融機関を指定していくという考えてございす。

第四条の運用基金の処理でございすけれども、これにつきましては基金から生ずる預金利子かというお尋ねでございすけれども、そのように考えておる次第でございす。

○二〇番（石井武敏君） 四十一号につきましてでございますが、作業能力のある者という点につきましては、その作業能力とはある程度の作業能力という御説明がありましたし、それに加えて慎重にこのへんの判断は行おうというような答弁がありましたので了承いたします。

また、館山市から近隣町村に入所以後に移転した人に関しましては、事例の発生した時点で慎重にこれを考えていくと、本人の希望をいれてというそういう御答弁がありましたので、どうかこの条文の運用面につきましては、柔軟性を持たせて実態に沿った運営をお願いしたいと思うんですが。

なお、この四十一号につきましては、十九名というように定員

を定めているんですが、これは施設の収容人員の面からでありまして、あるいは指導する立場の教授能力の面からこの数を割り出しているのか、そのへんをお尋ねしたいと思います。

また、この種の作業所が県内のほかの市でも行われているのではないかと思います、どのように運営されておるか、掌握しておれば御説明願いたいと思います。

といいますのは、当市の運営の仕方というのは条文の第十条にありますように館山市福祉協議会に委託をしていくわけでございます。これはおそらく運営の方法としては補助金を福祉協議会に出して、具体的な実務的な業務は福祉協議会に委託してやるという関係になると思いますが、県内のほかの地域でもしやっているとあるとすれば、そういったようにやっておるのかあるいは直でやつてるところがあるかないか、説明願いたいと思います。そうして、作業所の管理運営を福祉協議会に委託するわけでございますが、これは維持管理の予算の面の措置としては大体どの程度が見込まれていくんでしょうか、この予算の面をひとつ御説明願いたいと思います。

それから、四十二号でございますが、これは金融機関と基金の運用から生ずる収益につきましては了解をいたしました。

地方自治法の第二百三十三条の二にあります、国保会計の中で余剰金ができただけの場合、それをこの基金の中に編入するところの条文がここにはないわけでございます。

この条文を全部見ますと、繰替運用第五条、第六条の処分、財政上の必要があると認められたときに基金からほかの会計に、第五案になります、一般会計に運用することができるといふ条文

でございますが、第六条は基金から特別会計国保の方に、歳入歳出予算に計上して処分することができるといふ、第五条、第六案ともこの基金から出す条文でございますが、編入する条文というのは、たとえば国保会計が余剰金できた場合に、その余剰金の二分の一は基金に編入するという義務がこれは法令でうたわれているのではないかと思います、地方財政法の第七条でございますが、これは当該余剰金の二分の一を下らない金額、二分の一以上の金額を余剰金を生じた翌年度までにこれを基金に入れなければならぬ。そういうふうにこれは義務づけされているように思うわけでございます。

そうしますと、地方自治法の第二百三十三条の二を見ますと、このようになっております。「各会計年度において決算上剰余金を生じたときは、翌年度の歳入に編入しなければならない。ただし条例の定めるところにより、又は普通地方公共団体の議会の議決により、剰余金の全部又は一部を翌年度に繰り越さないで基金に編入することができる。」と、基金に編入することができる場合は地方公共団体の議会の議決によらなければならないとなつています。だから、これは剰余金できた場合はその都度議決をして基金に繰り入れていくとするのか、この編入の条文がないのでおそらくそういうふうに考えられるわけでございますが、この基金に編入する際の条文は必要ないかどうか、その点をお尋ねしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） お尋ねの第一点の福祉作業所の定員十九名の関係でございますけれども、これにつきましては県の在宅精神薄弱者福祉作業所設置運営要綱というものが五十二年十二月

に制定されておりまして、県要綱に基づきまして今回の条例を策定したわけでございますが、当然県の事前協議を得ましてこの条文を策定したわけでございます。十九名定員と申しますのは小規模福祉作業所でございます。これにつきましては市町村が設置するということでございます。大規模あるいは中規模につきましては県が直接作業所を設置する。こういう趣旨でございます。そういうことから、県の設置要綱によりまして、福祉作業所の定員は十人以上二十人未満とするとなっておりまして、今回当市におきましては十九名定員としたような経過がございます。

それから、県下他市におきます福祉作業所の設置、運営の状況でございますけれども、現在県下におきましては四市これは直営でございますが、その他手をつなぐ親の会こういう会に委託してあるところは三市ほどございまして、現在七市でそれぞれ福祉作業所を設置、運営しているわけでございますが、これらの状況につきましてもそれぞれ照会あるいは視察をいたしまして調査をいたしたわけでございますけれども、県の設置運営要綱に基づきまして運営をされているような状況でございます。

それから、福祉作業所の予算の関係でございますが、一応社会福祉協議会の方に仕事を全面的にお願いいたしましてやっていただくことを予定しておりますわけでございますが、その委託料といたしまして本年度におきましては二百三万円を一応予定いたしております。その内訳といたしましては人件費、事務費等でございます。

次に、四十二号議案の関係でございますけれども、国保会計の

基金の設定に関連いたしました。毎年度の剰余金を生じた場合の基金への積み立てあるいはまた繰入の問題でございますけれども、これは地財法におきますと第七条一項に規定されております二分の一以上の額を積み立てるように規定がございまして、これにつきましては今後いろいろ検討いたしまして、どの方法をとるかということにつきましては慎重に対処していきたいと思っております。でございますが、考え方といたしましては地財法七条一項の規定に準じまして、生じた剰余金の二分の一程度は基金への積み立てという考え方があるわけでございます。

ただいま御答弁申し上げましたように、当該年度の剰余金を積み立てる、いわゆる地財法に準ずるもしくは条文第二条にございますとおり、毎年度基金として積み立てる額は、当該年度の特別会計国民健康保険に定めるところによると、二本立てによつて、そのときの状況によつて慎重に対処したいと思っております。

○二〇番（石井武敏君）　ただいま説明を受けたわけでございますが、福祉作業所の点につきましては、作業所の持つすぐれた面を生かして運用をお願いしたいと思うわけでございますが、当局としても福祉協議会に委託をするわけでございますから、委託をしたからいいということではなくて、そのへんの運用の面で円滑にいくように御努力をお願いしたいと思うわけでございます。

なお、四十二号の先ほど御説明がございましたけれども、指定機関にしましては、市の指定機関から、その中から一つを選ぶというように私は先ほどの答弁を受け取ったんですが、一つを選ぶとするとどの機関が考えられますか。この金融機関に預金する場合。

それからもう一点、私の御質問申し上げたのは国民健康保険から編入する際の編入の仕方を御質問したわけでございまして、剰余金の二分の一を下らない額を積み立てることは、これはもうすでに条例で義務づけられているわけで、ここで特に論ずるあれはないわけでございますが、編入する仕方これはこの基金をつくるときに定められるのが望ましいんではないか、いわゆる基金に編入する必要が生じてからどうしようかということではなくて、この条文を読みますと、おそらくこういうことはあり得ないんじゃないかというところまで条文化されているわけです。たとえば、第五条の繰替運用の条文では、いわゆる基金がたまってきて、基金の方からほかの一般会計に運用するということはおそらく考えられないですね、いまの状態では。これからの将来の見通しとしてはこういうことがないだろうということが条文として五条になっているわけです。

そういう細かいところまで条文になっているので、基金に編入する際の編入の仕方これは議決を必要とするわけでございまして。剰余金が編入されるためには議会の議決によつて剰余金の全部または一部を翌年度に繰り越さないで、直接基金に編入することができるわけでございまして、これは本来ならば翌年度に一たん繰り越してから使用すべき剰余金を、繰り越し手続をしないで直接編入する道を開いているわけです。

ここで大事なことは、必要な条件としては、条例を定めておけばその都度の議会の議決は不要であると、直ちに剰余金を基金に編入することができるわけですが、その編入の仕方を議会を一々開いて決めるのか、あるいはそういう状態が起こつてから検討す

るといふような感じの答弁が先ほどありましたが、その点は非常に条文の策定としては、必要のないところを細かく条文でうたつてありながら、基金に編入する仕方これは条文に定めておかなければ基金に編入できないのではないかというふうに思われますので、その点の説明をひとつお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） 第三条の管理の關係でございすけれども、指定金融機關を中心にしたしまして、収納代理金融機關等を含めまして分割して保管していくことも考えております。

○総務部長（鈴木弘道君） 基金の繰り入れの關係でございすけれども、地方自治法二百三十三条の二、御指摘のように剰余金の全部または一部を基金に繰り入れる場合について、あらかじめこの基金の条例の中に規定しておけば、御指摘のように議会の議決等を経ずに直接この基金の中に編入されるわけでございますが、国保会計そのものの性質が毎年医療費の増高とか、また患者数の關係とかいろいろな不定の状況があるわけでございます。ですので、そういうことで、この条例の第二条に予算で毎年毎年基金を積み立てる場合については予算に計上して議会の御審議をお願いするということで、二百三十三条の二の規定を適用しなかつたというところでございます。

○二〇番（石井武敏君） 基金への編入の仕方は、ただいまの御答弁では議会の議決を得てやると、その都度ということであればそれで承りました。

それから、金融機關につきましては、ただいまの御答弁では分割してやりますということですが、そういう答弁返ってきますと、幾つに分割するのか、全部に分割するのかという質問が出てくる

わけですが、この点は単に分割していくということですが、何も腹案がないということとでございましょうか、なければないで質問は打ち切ります。

○民生部長（鈴木 力君） 現時点におきましては、はつきりと申し上げるわけにまいりませんけれども、その時点に至りましたら慎重にいろいろ検討いたしまして決めていきたいと、このように考えております。

○二〇番（石井武敏君） 質問を終わります。

議長（石井 正君） 次、一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 三十九号議案並びに四十一号議案、四十二号、四十三号、四十四号ということで御質問いたします。

まず、三十九号議案であります。非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてということで、嘱託医を委嘱することとございすが、従来予防接種の会場等が非常に混雑を催して、そのために予防接種に行つたところがお子さんがむしろ病気になるつてしまうなどというような、そういうような話がこれまでたびたびお話を伺つておりました。ですから、こういう形で嘱託医制度をつくるということについては非常によいことというふうに考えるわけがあります。

それで、具体的にこの嘱託医の方ができた場合に、従来地区ごと程度にやつてほしと、予防接種についてこういうような要望等があつたわけですが、このへんの具体的な改善でどの程度まで改善ができるのか、そこらについての御説明をお願いしたいとい

うことです。

それと、具体的に嘱託医の方の実働の時間というようなものがどれくらいのもので、そして報酬を二十五万円ということで具体的にうたつてゐるわけですが、その報酬の妥当性というものがどういうものであるのか、そこいらの点をお願いしたい。

次に、四十一号議案の問題であります。ただいま石井議員の質問等もありましたので、特に管理委託するという問題点につきまして御質問いたしますが、委託するにあつてどのような条件で市としては、当局は考えておるのか。具体的には職員の方が何名、そうしてまたこのような作業の特殊性ということからして、どのような方を、どのような条件が必要であるというふうに考えておられるのか。

次に、四十二号議案であります。この基金をつくり、そうして一般会計の方から繰り入れをするということについては、従来この問題については、市長の先ほどのお話にもありましたように税の負担はもう限界にきていると、こういうような認識のもとにそのこと自体としては評価するものでありますけれども、国保会計そのものに直接繰り入れをしていくという考え方、こういうたものをとらないということはどういう理由なのか。そうしてまたこのような調整基金へ一般会計の方から繰り入れをしていくということについては、今後の問題としても引き続きどのように考えておられるのか、そこらについて説明をお願いしたいということになります。

次が四十三号ないし四十四号議案ということで土地改良事業についての問題点についてであります。この事業費のうち農家の

負担というものが何パーセントになれるのか、そうしてこれはもちろん国の施策として行いわけでありますから、しかしながら現実には全額国が負担をするということになつておらないわけがありますから、市としてさらにこの問題についての負担をしていくということについてはどのようなお考えであるかということについて質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第三十九号につきましては、予防接種の会場は各地区すなわち市内十地区で実施する予定でございます。それから各会場ごとに午前二時間、午後二時間程度の時間帯でやっていただく予定であります。

嘱託医につきましては、予防接種のほかに検診等を含めまして一カ月二十日間ぐらいを勤めていただく予定でございますが、その報酬につきましては現在予防接種担当医に報酬として支払っておりますのは、午後二時間程度で一人一万円でございますので、こういったようなことを勘案いたしまして二十五万円としたわけでございます。

次の議案四十一号の福祉作業所の件でございますが、職員数は二名と考えております。その二名の方々の資格等につきましては特に定めはございませんけれども、少なくとも心身障害者の更生保護に熱意と識見を持つてゐる方ということで、しかも社会的な信望の厚い方といたしたいと考えております。福祉関係特に心身障害施設に三年の経験を持つてゐる者を予定しております。すでに内諾をいただいております。

議案第四十二号につきまして、国保会計に直接一般会計から繰り入れないかというお考えでございますが、国保会計はあくまでも特別会計でございます。独立会計であるべきだ、独立採算であるべきだというのが私の基本的な考え方でございます。

しかし、現実の運営の場合に、その支出の大宗を占めるのが保険給付費でございます。予測困難な動向に左右されるということでございまして、財政運営がなかなか困難な場合がございます。その円滑を図るために一応ここで調整基金を設定をいたしました。そういう考え方でございます。

議案第四十三号の土地改良事業の施行についてでございますが、この事業は転作促進特別対策事業の転換水田整備事業として中里地区で実施するものでございまして、事業費に対する補助の割合は国が五〇%、県が二五%、市が一〇%でございます。

以上、答弁を終わります。

。一番(神田守隆君) 三十九号の議案であります。二時間で一万円のあれを現在行つてゐるということですから、二十日ですか、大体その二十五万円ということはいふ内容がよくわかりました。この問題については特に予算処置については触れてはおりませんけれども、その点については必要はないのか、この点ですね。

それから、四十二号の問題であります。二千万円ということが補正の中で出てゐるわけですが、こういう具体的な金額が示されてゐるわけです。ここはどのようなお考えで二千万をなされたのか、そこいらの話と、今後の問題ということで含めてお話しただければ幸いです。

。民生部長(鈴木 力君) 予防接種の嘱託医の報酬の関係でござ

いますけれども、予算処置につきましては五十四年度予算におきまして予防接種嘱託医の報酬が計上されております。これにつきましては当初安房医師会に予防接種を全面的に委託するという前提のもとに予算が計上されておるわけでございます。現在のところ、この従来の予算の範囲内におきまして支出するということでございます。

それから、国保会計の今度の財政調整基金への積み立ての関係でございますけれども、一般会計等から国保会計に二千万円支出いたしました、国保会計から基金の方に二千万円積み立てるというところでございますが、二千万の根拠につきましては、考え方といたしましては一応現在の保険給付費が月にいたしますと、月の支払い額が大体一億二千五百万程度でございます。それに対して、いわゆる受診率の上昇あるいは一件当たりの費用額が自然増の形で毎年度上昇しておるわけでございます。その他制度的に改善がございまして、医療費の改定等がございまして、年々保険給付費というものが増高しておるわけでございます。そこで月の支払い額に対して大体一・五カ月程度の余裕をもつて基金に編入をいたしまして、将来の支払いあるいは財政の健全化のために当面二千万程度を予定いたしましたことでございます。

○一番（神田守隆君） 支払いの余裕等から二千万ということが考えられたことですが、それはちよつとこの趣旨からいってですね、先ほど市長が税の負担の限界という問題を触れられておるわけですから、そういう点から見ると非常に二千万というのは金額的には少ない。問題があるというふうに私は考えるわけです。そういうようなことでこの金額の問題ですね。こういうことで前

進的な考えをされておるということについては理解するわけですが、現実にはこういうような非常に少ないことでは、大きなせつかくのねらいが役割を果し得ないということではなはだ不満であるということであります。

それからまた、四十一号の問題であります。このような身障者の福祉作業所というものでつくられるわけですが、現実的な管理の問題、運営の問題で「仏つくつて魂入れず」という言葉があるわけでございますが、そういうようなことが決してないように当局の十分な責任というものを自覚して熱意を持ってやっていただきたいということを要望いたしまして打ち切ります。

○議長（石井 正君） 次、四番議員横溝 功君。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 議案第四十一号について質問いたします。

住宅心身障害者これは十五歳以上対象でございますが、本市施設ができることはまことに結構なことで存じます。さらにはその目的を効果的に達成するために福祉協議会にその運営、管理を委託することにつきまして、本場に結構なことと思ひます。ただ、私は身障者の幸福のためによりよい管理、運営を願ひまして、次のことをお聞きするわけでございます。

ただいま、石井議員、神田議員からそれぞれ御質問がございましたので、私は二つ三つ聞きたいと存ずるわけでございます。

本施設の管理、運営を福祉協議会に委託するにあたりましては、すでに同会と折衝したかどうかをお聞かせ願ひたいと思ひます。その際、どういふ論議が行われたかどうか、そしてどのような形で福祉協議会が承諾しておるのかどうかをお聞かせ願ひたいと存

じます。

次に、本種類のような公の施設を委託する際には、委託の基本的事項といたしまして、条例に委託の条件あるいは相手方あるいは委託料を明記すべきであると、これは昭和三十八年の自治省通達で出ておるわけであります。

市会といたしましては、こういう委託の条件とか、あるいは相手方とか、委託料についての条例がないとなんか気が抜けたような条例のように私自身は思うわけでございますので、この点どういうわけで相手方の明記して、ほかにつきましては割愛したのか、お聞かせ願いたいと思います。

次に、なるほど当初予算に委託料といたしまして二百三万計上されておりますが、この計上は条例と同時に出すか、もしくは条例が通つた直後に出すかの方がいいんではなからうかと、なんか予算だけ先にやつて議決さしておいて、そうなりますと、議案を通さざるを得ないというようになつこうになりはしないかと思ひます。この点、当局はどういうお考えであるか、お聞かせ願ひたいと思います。以上です。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 横溝議員の御質問にお答えをいたします。社会福祉協議会と十分協議をしたかという御質問でございますが、本来手をつなぐ親の会、身障者の親御さんの方の会がございまして、この方々が大変御熱心にこの事業の推進を要望され、また御協力くださっているわけでございますが、そうした方々を交え、市の社会福祉協議会といろいろ相談をしてまいりました。数回協議会の役員会をもちましたし、それから最近では八月二十四

日に役員会をもちましたし、また八月二十八日に社会福祉協議会の理事及び評議委員会の合同会議を開催しまして、その際に十分こちらから御説明を申し上げ御了解を得たわけでございます。

別に、その間 大変これという質問もございませんで、大変結構なことだという、福祉協議会が積極的にこうした福祉事業に協力することは結構なことだということで、特にこれという問題点も出てまいりませんでした。満場一致で賛成をいただいたところでございます。

委託料をこの条例の中に明記すべきだということでございますけれども、委託に関する基本的な事項については、たとえば設置の目的を達成するためのその管理の問題とか、いろいろ細かいことが規定してあるわけでございまして、委託料の金額を規定しなくても問題はなからうかと、そんなように考えておるわけでございます。

以上、答弁を終わります。

(「答弁漏れ」との声あり)

。民生部長(鈴木 力君) この福祉作業所の委託料につきまして、当初予算におきましてすでに計上されておりました、議会の議決を得るわけでございますが、具体的な内容につきましては、その後慎重に検討を続けまして今日にきておるわけであります。十月一日を目標に開設をする運びとなるわけでございますが、そんな関係がございまして、今回条例の成案というところで上程をいたしました、御審議をお願いした次第でございます。

。四番(横溝 功君) 今後、要望したいわけですけれども、やはり条例が通つたあるいは同時そういう時点です算計上をする方

が私はいいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○民生部長（鈴木 力君） 御趣旨ごもつとまでございます。先ほどお答え申し上げましたとおり、予算措置を講じましてその後いろいろなと検討してまいりまして、条例を成案いたしまして今回上程をお願いした次第でございます。

○四番（横溝 功君） 了解しました。以上です。

○議長（石井 正君） 次、一二番議員栗原一雄君。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 議案第四十号館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例を廃止する条例の制定について御質問いたします。

初めに、市長の提案説明によると「住宅建設資金利子補給交付制度を設けることにより、多くの市民を対象とする弾力性あるこの制度を活用するため、さらには市民の持ち家制度をも推進していくために館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例を廃止しようとするものである」と説明がございましたが、廃止しようとする条例は、災害の発生により被害を受け困った緊急事に役立てるべく制度化した福祉要素のきわめて強い条例で、新しく設けようとする資金に対する利子補給制度とは目的また性質的には内容を異にする異質のものであるかと存じます。しかし、提案説明では同一的に考えられるように思われますが、いかがでしょうか。

これが、単にせつな的に他市において実施されているからと、思いつきによる安易な考え方の発想では、あまりにも自主性に欠けた物まねの内容で、地域に密着した真の行政サービスはきわめ

て困難であろうと考えますが、内容的に同一に考えておられるのかどうか、お尋ねいたします。

第二点として、廃止しようとする条例が本定例会の議案として提出されるまでの間、執行当局においては十分に検討を行った結果、廃止の方向に踏み切り、提案されたことと存じます。

この条例の運用にあたつては、昭和五十三年十一月一日以降に発生した災害から適用することになっており、現在なお一年に満たない時期にいたる簡単に議案として提出され、全く反対の審議を受けようとすることに疑義を感じるもので、行政とは何か、市民の行政需要に対して真剣に取り組んでいても、思いつきではいかと評価されやすいと思われるがどうか。

なお、条例の制定、改廃は議会の議決により自由であるもののあまりにも短期の廃止では政治姿勢について疑問を抱くものであり、今回提出された第四十号についても慎重さを欠いているものと思われるが、その真意及び廃止の理由について納得のいくお答えをいただきたいと存じます。

第三点。次に、廃止されようとする条例の原資はもろろん市民の納付する税金であるが、地域社会の住民はひとしく社会共同体の一員として相互扶助の精神にのつとつた条例として議決、制定したもので、万一住民の災害発生に伴い罹災した場合、災害救助法の適用を受けられない力の弱い罹災者に対する市民サイドに立つた条例で、なお罹災者に対する早期更生の意欲を助長、促進するための災害援護資金として、あわせて市民福祉向上を図るものとして、制定時における審査過程においても福祉の見地から弱者救済措置として十分なる質疑がかわされ、議決されたものでござ

います。

したがって、この制度がたえず利用されるような災害が常に発生してはならぬものであり「備えあれば憂いなし」のたとえのとおり、万一住民が災害を受けて悲しみ、苦しんでいるときに少しでも不安を解消し、なお精神的負担の軽減を図つて差し上げることが廃止をしようとする条例の意図的な意義があらうと存じます。

したがつて、廃止後における罹災者に対する救済措置について今後どのような対策あるいはお考えをお持ちになつておられるかお尋ねいたします。以上。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 栗原議員の御質問にお答えをいたします。

議案第四十号でございますが、県におきましては住宅建設資金利子補給事業補助金交付要綱というものが定められておりまして実施されているわけでございます。その内容は、持ち家の建設事業をする者が指定金融機関から借り入れた建設資金等の貸付利率について一定限度内の利子補給を行つた市町村に対して補助額の二分の一を補助する制度でございます。

館山市は、持ち家の普及を促進するため、県要綱に準じまして利子補給事業を開始しようとするこゝといたしまして、館山市住宅建設資金利子補給金交付要綱を定める予定でございます。これはもちろん県の補助対象となるものでございます。

さらに、そのほかに県の補助対象のほかに市民の利便を考えまして、指定金融機関以外の市内の全部の金融機関にも適応できるように、市の負担によりまして上乗せ措置を講じようとするもの

であります。

この利子補給金制度の概要につきましては、昨日でございましたが、説明資料不十分でございましたので、お渡しをいたしてお読みをいただいたところでございますが、そこでこの議案に関連いたしましたその説明資料をお渡しいたしましたわけですが、御指摘のように昨年の九月議会で災害住宅復旧資金の貸付条件を御議決いただいたわけでございますが、この対象も事情は違いますけれども、ひとしく住宅建設にかかわる制度でございますので、利用者の立場から、特に災害復旧住宅建設の利用者の立場から検討をいたしまして、慎重に検討をいたしまして、その利便さ、有利性、そうしたものをあわせて判断し、この際、災害住宅資金の貸付制度は廃止して、そうしてこの要綱の中に一本化する。そういうふうな考え方で、災害住宅にかかわる利子補給の関係を特別にこの要綱の中で市の負担においてという形で上乗せして制度をつくろうとするものでございます。

この切りかえた場合に、貸付条件に定める内容、条件は、今回の利子補給制度となりましても下回わることはございませんし、むしろ部分的には条件がよくなつて上回つていゝるものもございまして、そういう意味で利用者にとつては有利なものだというふうに考えております。従来の対象限度額は二百万でございましたけれども、今回は二百五十万、場合によつては三百万まで利子補給をすることになつております。さらにまた銀行等の関係で償還期間も長くなるわけでございます。そういうふうななかで有利な点がありますので、この方が罹災者にとつてよりよい制度ではないかと、そういうふうに考えているわけでございます。

弱者救済というようなお話もございましたけれども、確かにそれはそのとおりでございますけれども、ひとしく経済的な利便という点から言えば、かえつてこの制度を適用する方が弱者救済の目的にかなうんじゃないか、そんなふうに考えているわけでございます。

さらに、市の立場からいたしましても、金の貸借は専門の金融機関にまかす方がより効率的でもございますし、県の補助要綱に合致する分については県からの補助金を市としても受けられる。

さらに昨年度の総務委員会の御意見が、この災害住宅の建設資金の貸付け条例の審議の際にもいろいろ御意見が出ましたけれども多額の資金が凍結することになりはしないか、将来これは利子制度も考えるべきではないかという御意見もあつたわけでございます。そうしたような事情を勘案いたしまして、基本的にはこの制度の方がより災害者のためになる制度だと、そういう観点からこの貸付け条例を廃止したい、そういうふうに考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

。二二番（栗原一雄君） 今度設けられます住宅建設資金利子補給金交付制度の方がきわめて有利だ。このようなお話をいただいたわけですが、しかし性質的には異質のものである。最初に私が申し上げたとおりには私はそのように信じております。

そういった意味から申し上げても、やはりある程度の生活が安定しておりませんと、銀行さんは貸してはくれないわけでございます。そういった金が自由にならない弱者に対する救済措置として昨年度議会に提出されたものと存じます。

したがって、この制度の廃止については十分再度検討する余地があるのではないだろうか、もちろん答弁は私としては十分ではございません。他にも質問もありますのでしゅうし、委員会等におきましてもこれから論議をかわすことになるかと、かように考えますので、私は本日は以上をもちまして質問を一応打ち切りたいと存じます。

。市長（半澤良一君） 答弁漏れがございましたので、一言追加させていただきます。

先ほど、御質問の中で昨年に決めた条文で一年間たないうちにこの条例を改廃するということは朝令暮改のおそれがあるのではないか。さらにまた災害に遭つた方々に対する思いやりの点で欠けているんじゃないかという御質問がございました。その点については確かに御指摘のとおりでございますして、深く反省をいたすところでございます。

。議長（石井 正君） 次、二九番議員安西益男君。

（二九番議員安西益男君登壇）

。二九番（安西益男君） 議案第四十号についてお尋ねいたします。前者にもそれなりの回答がありましたので、私は自分なりに納得のいくよう質問をさせていただきます。

そこでまず、災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例を廃止し

よりとする理由についてでございますが、市長は、この条例は当初災害により罹災した市民に住宅復旧の資金を市が貸付け、早期更生の助長を図る目的をもつて制定されましたと説明されており、またこの条例にも「この条例は、災害等により罹災した市民に対し、その住宅復旧資金を貸付けることにより、罹災者の早期更生の意欲を助長し、促進することを目的とする」と示されておるわけでございます。

ところが今回、この目的とする救済処置をはずしてしまふ、つまり抹消してしまふということでございます。この制度は市長の目玉と言われるような政策であつたと評価されており、昨年十月に制定、十二月により段階的に改正されたものであります。もちろん議会の承認を得て条例化されたものでありまして、国や県からの方針が改廃することといった性格のものとは違うのでございます。

したがつて、事前に関係委員会なり、議会にあらかじめの意見調整をする配慮があつてしかるべきではなかつたか、このように考えられますが、この点についてはいかがなものでございましょうか。

今回、このように一方的に四十号を上程し、しかも可決されるものと見越して、その予算額である四百万円についても減額処置をなさろうとしております。これは一体どういうことなんでございましょうか。予算総額の収支に影響することでもあり、この点について当局はどのようにお考えでございましょうか、お尋ねしたいわけでございます。

四十号廃止について、市長の説明ですと、住宅建設資金利子補

給金交付制度を設けるから、災害復旧貸付け制度は廃止すると、こういう説明の仕方。そうして災害復旧貸付け制度の趣旨を組み入れることによつて広い意味の福祉の拡大であり、発展的廃止である、このようにもお考えでございしますが、そこでお尋ねいたしたいと思ひます。

利子補給制度の内容にどのように罹災者の救済処置が含まれておるのか、利子補給制度の内容については要点だけをお聞かせいただきたいわけでございますが、参考資料にはその趣旨が全く見受けられないのであります。

住宅建設資金利子補給金交付制度、この制度そのものはまことに時宜を得たすばらしい施策であると存するわけでありませんが、それでこの制度は一般市民を対象として、その条件を有する者に適応するというものでありますから、これらの該当者はある程度資金の見通しも立て、借入金について利子補給を受けられる者でそれなりに準備して計画を進める立場の人でございします。

災害罹災者の場合は予期せぬ災害、事故に遭ひ、思わぬ被害を受けた人たちにその更生を促進し、将来への希望を与えてやろうという目的でつくられた救済制度でございします。この制度を発展的に移行させると思はれる説明、これは納得しがたいのであります。

救済処置の裏づけもなく、切り捨てようとなさるのでは人間性豊かな行政云々と申されなさい。せめて市が債務の保証でもしてこの制度と同じような運営方法を考へておるといふならまだしも、いずれにしてもこの理由のない廃止はすべきでないと強く訴へる次第でございします。

四十号につきましては、以上の観点から、なおまた、かつ細部にわたつての質問を申し上げたいと思います。以上でございます。

議長（石井 正君） 暫時休憩いたします。

午前十一時二十三分 休憩

午前十一時四十六分 再開

議長（石井 正君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

発言の取り消し

議長（石井 正君） ただいま、安西益男君より先ほどの発言中一部を取り消したい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。この申し出を許可することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて、発言取り消しの申し出を許可することに決しました。

日程の追加

議長（石井 正君） この際、申し上げます。

九月三日市長から提出された議案第四十号について、九月六日付をもつて撤回したい旨の申し出がありました。

この際、議案第四十号撤回の件を日程に追加し、議題とすることとに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつてこの際、議案第四十号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

た。

議案第四十号撤回の件

議長（石井 正君） 議案第四十号撤回の件を議題といたします。市長から撤回理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

市長（半澤良一君） ただいま審議中の議案第四十号館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例を廃止する条例の制定についてであります。本条例は諸般の情勢からなお検討の必要がありますので、撤回いたしたくお願い申し上げます。よろしく願ひいたします。

議長（石井 正君） お諮りいたします。

ただいま議題となつております議案第四十号撤回の件については、これを承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて、議案第四十号撤回の件についてはこれを承認することに決しました。

委員会付託

議長（石井 正君） ただいま議題となつております議案第三十九号及び議案第四十一号ないし四十四号の各議案は、お手もとに配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

午前の会議はこれにて休憩といたします。午後は一時より開会いたします。

午前十一時五十分 休憩
午後一時二分 再開

議長（石井 正君） 午後出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

議長（石井 正君） 日程第二、議案第四十五号ないし議案第四十八号昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質疑応答

議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一〇番議員 穴戸寿夫君。

（一〇番議員 穴戸寿夫君登壇）

一〇番（穴戸寿夫君） 本定例会に提出されております九議案の中から通告いたしました二点について質問いたします。

第一点は、議案第四十五号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算第一号中歳出の部第六款農林水産業費第三項水産業費第二目水産振興費第十九節負担金補助及び交付金の中の漁業村落振興緊急対策事業補助金五千三百三十八万円についてであります。

第二点は、議案第四十七号昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計補正予算第一号中歳出の部第一款経営費第一項経営費第三目国民宿舍建設費第十五節工事請負費三千三百三十七万円についてあります。

まず、漁業村落振興事業補助金五千三百三十八万円についてですが、予算説明によりますと「昭和五十四年度特別措置として、地域コミュニティ活動の中心となる施設及び地域住民の各種活動を推進するための事業に対して補助する」とありますが、この施設整備の内容及び推進事業の計画について説明いただきます。また、特別措置とはどんな理由によるものかもお聞きいたします。

次に、国民宿舍特別会計補正予算の第一款経営費の中の工事請負費三千三百三十七万円についてであります。過ぐる七月の臨時市議会において本体工事、空調給排水工事を合わせて三億五千四百五十万円の契約締結について承認、可決されたばかりでありましたが、そこで今回の補正額は当初から組み込むことができなかったのか、お聞きいたします。

説明資料によりますと、建築面積の増及び施設の充実とありますが、何平米の増加があり、施設の充実とはどんなものであるかお聞きいたします。

以上、二点について当局の御説明をいただきます。説明により再質問いたしたいと思ひます。よろしく願ひいたします。

（市長半澤良一君登壇）

市長（半澤良一君） 穴戸議員の御質問にお答えいたします。

御質問の第一点、漁業村落振興緊急対策事業についての御質問でございますが、二百海里時代を迎えまして沿岸、沖合い漁業の振興、水産物の安定的な供給が水産業界の今後の課題でございます。この課題の解決の前提に村ぐるみ連帯感の醸成を図り、人づくりを進め地域コミュニティの機能を強化することが必要でござ

ございました、この対策事業は以上の状況から昭和五十四年度の特別措置として、地域コミュニティ活動の中心となる施設整備と、これら施設を活用した各種活動に対して助成することにより、今後の漁業振興に資しようとするものでございます。

建物は鉄筋コンクリート造り二階建てでございます。一階が二百六・七七平米、二階が一九八・四一平米計四〇五・一八平米でございます。

今後、他の組合にも建設する考えがあるか、他の組合から要望があるかという御質問でございますが、現時点では国の補助事業としてのこうした事業はございません。また他の組合から特に要望もございません。

御質問の第二点、鳩山荘に関する件でございますが、御説明申し上げましたように建築面積の増及び施設充実のための構造上の変更があつたために予算不足を来したものでございまして、面積の増は百五十・〇三平米でございます。そうしてこの建物の中に従業員の宿舍とか、あるいはプロパン庫等を加えたものでございます。

○一〇番（矢野寿夫君） 御説明ありがとうございます。

ちよつと答弁漏れがあると思いますので、再度聞きたいと思いますが、各種活動を推進するための事業に対して補助するということで、推進事業とはどういうものをやるのか、その計画について御説明願いたいということをお話したと思うんです。それについて御答弁がなかつたと思います。

それから、特別措置というのはどういうものであるかということ

とですね。法令があるんでしたら、特別法ができておるんだつたら、どういう法律があるのか、それをお聞きしたんですが、それも御答弁がなかつたと思います。

それと、この施設ができた場合に、その管理それから運営はどこでやるのか。それからその運営費ですね、運営諸経費の負担はどこで行うのか、これをお聞きしたいと思います。

次に、鳩山荘でございますが、面積の増が百五十・〇三平米、施設の充実とは従業員宿舍、プロパン庫ということでございますが、従業員宿舍はあとの計画ということになるかもしれませんが、プロパン庫とかそういうものはもう設計の段階でもつて当然必要のものではないかというふうに考えますが、当初からそういう計画はなかつたのかどうか、お聞きいたします。

それから、この工事に対しては空調給排水工事、本体工事というふうに分けて分離発注のような形をとっておりますけれども、その他の工事については大体分離発注は、七月の時点の契約締結については分離発注してないと思いますが、この工事に対して分離発注したことについてお聞きしたいと思います。

電気工事等は本体工事ですか、給排水空調の関係に入っているのか、それをお聞きしたいと思います。

○経済部長（太田博雄君） 漁業センターにおきますところの推進活動の内容でございますけれども、事業種目といたしまして、漁村地域住民交流促進事業といたしまして、地域漁業後継者について対話集会、婦人部等による踊り、民謡の大会等。次に漁村づくりの指導者育成事業といたしまして、漁村づくりを進めるための指導者を育成するために研修会、推進会議、先進地の視察等。さ

らに漁村高齢者、婦人等社会活動参加推進事業といたしまして、海女さんの健康管理講習会及び生きがいについての講演会等。次に漁村地域美化運動推進事業といたしまして、海岸及び部落内の清掃、ごみ箱の設置、清掃器具等の購入等が含まれております。

最後に漁村生活改善推進事業といたしまして、生活簡素化運動の推進、料理講習会、家計管理講習会等が主な事業でございます。

それから、これを建てます事業といたしましては、事業主体は館山船形漁業組合でございます。したがって、今後の管理、運営につきましては漁業組合が全部なされるわけでございます。

それから、特別措置というところでございますけれども、これはこの問題が起きましたのが五月頃のことでございます。これをどうして特別という言葉が使われたかちよつと私の方はわかりませんけれども、県の方でこういう事業があるからということの中でいろいろ話し合つた中で船形地区が指定されたわけでございます。先ほども市長が申し上げましたとおり、これは本年限りの事業でございます。あとにはないわけでございます。特別にその字句につきましてはこれ以上ちよつと説明できませんので御了承願います。

それから、鳩山荘の件でございますけれども、当初計画いたしましたのが二千四百七・二九平米、これが現在二千五百五十七・三二四平米になつたわけでございます。この差が先ほど申し上げました百五十・〇三四平米の増になつたわけでございます。

その中で、主なものとしたしましては、先ほど申し上げました職員の宿舎はあとでまた補正をお願いいたしまして建設する予定でありましたんですが、実は資材等の高騰がいろいろ見込まれて

まいりましたので、この機会に本体と一緒に中に入れたわけでございまして。

さらに、構造の変化と申し上げますところの、専門語で広縁というところでございますが、室の脇にペランダ的にソファ等を置くスペースがございます。これは国民宿舎の設計基準等の改定がございまして、客室にはできるだけ広縁と洗面所を設けるようにという設計基準の変更もございましたので広くしたわけでございます。以上が大体変更された主な理由でございます。

分離発注の理由につきましては、これは議会からもいろいろ要望もございましたことでございますし、また地元業者からの要望もございまして、さらには県あたりの指導も一応ありましたので今回分離発注いたしました次第でございます。

残ります工事といたしましては、電気工事が残つてゐるわけでございます。今回補正予算いたしましたのは、いわゆる電気工事の方に振り向けられることとなります。

。一〇番（穴戸寿夫君） 漁業の方の関係ですが、県の方でもつて特別措置として船形地区が指定されたということで、こういう事業というのは大変結構だと思ふんですが、ただこういう特別に県から補助が下りてくるとか、国が補助を出すという場合には、大きい組合は対象になりますけれども、小さい組合はなかなかそのときに対象にならないという方が多いんじゃないかと思うので、先ほども他の組合からは要望がないというふうなお話でしたけれども、小さい組合でもやはり同じようにコミュニティの推進等やっていくと思ふので、そうした面の配慮をこれから十分にやっていただきたいというふうに要望いたします。

次に、国民宿舍の件ですけれども、電気工事が主なものであるというふうなお話なので大体了解いたしますが、この鳩山荘の国民宿舍を建設するにあつて西岬地区の旅館とか、民宿組合の方々の地元民の声というのを当然お聞きになつてゐると思いますが、鳩山荘の建設にあたつてその周辺の整備、いわゆる公園化みたいな形にしてお客さまを呼ぶような施設をつくれなにかというような要望がたしか出てゐるのではないかと思います、そのへんについてのお考えをお聞きたいと思ひます。

。経済部長（太田博雄君）

ただいまの点につきましては、実は鳩山荘を建設するにあたりまして旅館組合、民宿組合等の一応御了解を得た方がよからうということでそれぞれ回つたわけでございます。その中で、民宿組合の方から特別に西岬地区ということじゃございませんけれども、城山公園の整備を早くやつていただきたいということが申されました以外にはちよつとお聞きしたことはございませんでした。

。一〇番（宍戸寿夫君）

民宿組合の方のお話というのは民宿組合ばかりではなく、館山市民全体が城山の開発を願つてゐるわけで私のいま申し上げてゐるのは、鳩山荘が施設が大きくなると、やはり西岬地区の民宿業者がお客の取り合いがかなり以前と違つていま厳しくなつてゐると、そういうことで鳩山荘を新しくするのは結構だけれども、その見返りとして西岬地区に娯楽施設とか、そういうものを作つてもらえないだろうか、こゝういふ声があつたと思うんですが、それについてのお考えをお聞きたいということとで質問申し上げてゐるわけです。

。経済部長（太田博雄君）

ただいまの件でございますけれども、

私たちはまだほかに聞いたことはございませんので、そうお答え申し上げます。

。一〇番（宍戸寿夫君）

聞いたことがないということでしたら、それ以上の質問はできませんので、これで打ち切りたいと思ひますが、いずれにしましても、城山の問題も出ましたけれども、市長さんが常に申されておりますように、地元住民とよく話し合つて事業を進めていきたいというふうなお考えをお持ちになつていらつしやるわけですから、たぶん西岬地区に行かれてその話をすれば、そういう話が出てくるはずですし、また城山の開発にしても、もうちよつと地域住民との話し合いを積極的になされて、せつかくりつばなコミュニティ推進の活動計画を立てておられるわけですから、それに沿つた方向で市当局も進んでいただきたいというふうに要望をいたしまして、私の質問を終ります。

。議長（石井 正君） 次、一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

。一番（神田守隆君）

四十五号議案補正予算について質問いたします。

まず、歳出の面で第二款総務費の中の一般管理費ということで市長交際費の百万円の増額ということが出てゐるわけでありますが、当初予算三百五十万円ということを出発してゐるわけであります。市長交際費が不足するから上乘せしてくれということであるのかと思ひますが、なかなかそのへんについてはそれだけでは理解できませんので、この内容についてどういふ理由で不足するのか、そこいらの説明をお願いしたい。

そうしてまた、同じ交際費ということで議長の交際費について

も三十万の増額が出てゐるわけでありまして。このへんの問題についても関連するということもあるかと思ひますので、御説明を願へたらということでもあります。

次に、第四款衛生費の清掃費のごみ処理施設建設に関する環境影響調査委託料ということで五百万が補正として出されてゐるわけですが、その委託料についてどのようなところに、どんな内容で委託するのか、このへんについて説明をお願いしたいというところであります。

次に、第八款であります。土木費の中の都市計画費街路事業費ということで、館山都市計画街路用地取得事業委託料ということとで七十九万八千円が補正として出されてゐるわけでございますが、説明を読みますと八幡高井線の用地取得という問題であるというふうに理解してゐるわけですが、この問題について八幡高井線の建設の実施計画ということで住民の理解を得ることが重要な問題というふうに考へるわけですが、住民からこの問題についての反対の声というものはないのかどうか。またもしあれば今後十分話し合ひが必要だというふうに考へるわけですが、そのへんについての所見をお伺いしたいというふうに考へます。以上です。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

市長交際費の増額でございますが、昭和五十四年度における交際費は御指摘のように当初で三百五十万円計上いたしました。が、今年度は大きな諸事業を手がけ、また市制施行四十周年に關しての諸行事、今後予想される事業としてごみ処理場の土地の選定あるいは機種の選定等もございまして不足が見込まれますので、今

回増額補正の計上をいたしましたわけでございます。

第二点、ごみ処理施設建設に關する環境影響調査委託料についてでございますけれども、ごみ処理場の用地の選定を現在急いでいるところでございますが、そのごみ処理施設を建設した場合、施設周辺の環境にどんな影響があるのか、あるいは環境保全のためにはどのような配慮をすべきか等の事前評価にわゆる環境アセスメントを実施しようとするものでございます。

調査項目については委託に際して調査機関と打ち合わせながら決定する考へてありますが、一般的には大気、水質、悪臭、震動等を主体にして考へられております。環境アセスメントは法的に義務づけられてゐるわけではございませんけれども、施設周辺の環境保全に万全を期するという見地からこれを実施しようとするものであります。

質問の第三点、館山都市計画街路用地取得事務委託についてでございますが、これは昭和五十年に実施されました県営圃場整備西部地区八幡圃場整備事業に關連して区画、残された館山都市計画道路八幡高井線の道路予定地を、千葉県地方土地開発公社に委託して先行取得しようというものでございます。

この道路予定地は圃場整備事業実施の際に、都市計画道路の計画にあわせて換地せずに残されたものでございます。

都市計画事業を実施していく場合には、事業用地の取得が円滑に行われるか否かによつて事業の進展が大きく左右されます。今回この土地を先行取得し、将来の事業実施を円滑に進めてまいりたいと考へてゐるわけでございます。御指摘のようにもちろんこの事業推進にあたりましては、地元との話し合ひを十分にした上

で事業を進めていきたいと思っています。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君）　まず、答弁漏れがあるかと思いますので。市長の交際費と関連しての交際費ということで議長の交際費の三十万の増額の件。

それと、八幡高井線の建設問題では地元の中で反対という声は現実にはないのか、そのへんの具体的なお話をお聞かせ願いたい。○議会事務局長補佐（石井敏夫君）　ただいまの議長交際費の増額につきまして御説明申し上げます。

市長から市長交際費の増額でも御説明がございましたが、本年は市制四十周年の事業としていろいろの会合が予定されておりまして。したがって、平常の年よりも相当の支出が今後まだ見込まれるということを目安いたしまして、三十万円の増額をお願いしたわけでございます。

○経済部長（太田博雄君）　八幡高井線の都市計画街路の用地取得の件でございすけれども、この土地につきましては四十三年に一応地元との約束事でこのように残されておる土地でございすので、このものについては別に異状はないわけでございす。ただ、都市計画路全体を見ますと、その中で一件でございすすが、ちよつとぐあいが悪いという反対でございすか、そういう意向を示されておる方がおることは事実でございすけれども、まだその点につきましては区長あるいは区民の方たちの話し合いの中で円満に進めてまいりたいということで現在話中でございす。○一番（神田守隆君）　市長の交際費あるいは議長の交際費という問題ですが、非常に大きな事業が今年はあるということだとか、

あるいは四十周年記念事業が今年があると、あるいはごみ処理施設の建設という大きな仕事を抱えておる。こういうことから交際費を増額をお願いしたいというわけですが、こうしたことは当初予算を組む段階ですべて予想されることであつて、新たに百万円を増額するという理由にはならないかと思うんですが、当初予算を組んでから、当初の三百五十万当然こういうことが予想されたわけですから、それなりの使い方をしなければならなかつたのではないかというふうに考えるわけですが、そのへんについてどうですか。

○市長公室長（汐崎政光君）　神田さんのおっしゃることでもともてあろうと思いますが、現実的にはあまり今後の支出を数学的に割り出すことも困難かも知れませんが、市長が行政事務を執行してまいります上におきましてさまざまな団体等と交渉したり市の利益を図るためにいろいろ支出しますいわゆる交際費でございすすが、この部面が昨年度決算におきまして大体三〇％であつたものが今年度ですでに三六％、この分ですと四十万から五十万ぐらいの不足を今後生ずるであらう。このような予測が現在持たれるわけでございす。

それから、市制施行四十周年記念に關しますいろいろな行事がすでに今年度初めからいろいろ各団体の協賛を得まして遂行しているわけでございすすが、昨年度そういうものに支出しました金額が総体の大体一六％でありましたものが、現在までのところすでに一九％支出されている。これを予測しますと大体二〇万から三十万ぐらい今後不足を生ずるであらう。こんなふうな予測が現在あるわけでございす。

それに今後、先ほど市長が申しましたようなごみの処理施設の問題等考えますと、結果的ではありますけれども、百万程度の不足が生ずる。こんなふうに考えまして、今回当初において当然そういつた計算を見越して計上すべきではありましたが、昨年度三百五十万でありましたので、交際費をあまり安易に増額しますのもどうかと思ひまして同額を計上したわけであります。

○一番（神田守隆君） いろいろそういう事情を言われて増額せざるを得なかつたんだと、こういうお話でございますけれども、この問題というのは、市長の交際費というのは、一つは冗費こういうたものをなくするんだということが当然の前提だろうと思うんですが、そういう市民の目から見ましたときに、安易に補正をするということについては非常な疑惑を招くわけでございます。

したがって、また私が六月の議会の中でも発言したわけですが、市長が議員を招待すると、これが常議の範囲内だ、こういうお話でございましたけれども、やはりそういう点については疑惑の目というのを見るわけでございますから、あくまでもこの交際費については虚飾、虚礼こういつたものをしないということ。私はその明細について詳しい内容を実は知らしていただきたいというふうに思うんですが、なかなかむずかしい面もあるうかと思ひますけれども、そのへんについてももう少し聞きしたいというふうに考えますが、いわゆる政治的な工作に使うなどということがあつては決してならないというふうに考えるわけです。そういうこととで内容について資料を公開する気がないかどうか。それについてお伺ひいたします。

○市長公室長（汐崎政光君） 交際費の支出の性格上あまり公にし

ますことはちょっと差し控えさせていたきたいと思ひますけれども、今年度支出を大きく分類して考えますと、当初三百五十万円の予算を組んだわけでございますが、現在まで約二百三十万支出しております。その支出の内容でございますけれども、いわゆる交際費と申しましょうか、市長が仕事を遂行するにあつて当然必要として考えまして支出しました額が総体の三六％でございます。それから慶弔関係が、これが八％でございます。それからもろもろの会議とか、その会議に出席しますのにあたりまして負担的な意味をもちまして持つてまいりました金額それが一九％、それから各種団体行事に対する助成、祝金銭のものが一九％、それから広告、賛助、謝礼こういつた種類のものが約一九％でございます。

○一番（神田守隆君） これ以上はお話は伺えない、そういうことです。か、いま私は公表というお話をしたわけですが。

○市長公室長（汐崎政光君） ちよつとそれ以上無理であろうと思ひんでございます。

○一番（神田守隆君） 私はやはりこれを公表されることができないという以上、六月の議会の中でも言いましたけれども、やはり疑惑ということを持たざるを得ないわけで、本当に市民のために使われるということで済んでいるのか、虚飾、虚礼に属することはないのか、あるいは内部的な政治工作に使われる性格のお金はないのか。全くこれだけでは判断をいたしかねるわけであります。そういうことで、いずれにいたしましても虚飾、虚礼に類することとはなさないでいたいただきたい。また私は六月の議会で言つたように、議員に対する宴会ということで費用を出されるというよう

なことにしても、やはり市民の批判を招くことになりかねないわけですから、そこらへんを十分考慮したいということで私の質問を打ち切ります。

○議長（石井 正君） 四番議員横溝 功君。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 通告いたしました四十五号議案の十七款市債について若干お尋ねいたしたいと思います。

このたび、市債に増額補正四千九百三十万が、多額に計上されておるわけでございますが、この説明資料によりますれば事業費の増及び査定基準の変更によつて増額されたんだということでございます。査定基準すなわち充当率のことでしょうが、変更のあったことはそうでしょう。しかれば、この三つで四千九百三十万になるわけなんですけれども、あと、とにかく今年度十七起債申請しておるわけでございますが、あとの十四の市債については当然起債の増があつたかと思うわけでございます。この計上がしてないわけでございますが、その理由をお尋ねいたします。

第二点でございますが、もし今回の決定がこの三債、三つの起債だけだつたといえますと、残りの十四起債の増額がもちろんあつたと思うんですが、おおよその額でございますが、今後の十四の起債増加見込み、その総体額が大体幾らになるかをお知らせ願いたいと思います。なお今後、十四起債につきましても全額借り入れるか否かをお伺いいたします。

答弁によりまして再質問いたしたいと思います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 横溝議員の御質問にお答えいたします。

九重保育園園舎改築事業債については起債の査定基準である面積の増及び単価アップによるものでございます。

道路整備事業債及び河川排水路整備事業債については、今回県から内示を受けましたので、増額補正をするものでございます。

現在までに確定をいたしました、わかつた分のみを今回補正をいたしましたわけでございまして、その他の起債に關しましてはその総額がわかりませんので全然補正をいたさなかつたわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○四番（横溝 功君） 充当率は全般にわたつてアップが行われたんじゃないかと思うわけでございますが、市長さんはわからないとおつしやるわけでございますが、もしもあつたとすれば当然増額が見込めるわけでございますが、全額借り入れるかどうか、お伺いしたいと思います。

○総務部長（鈴木弘道君） ただいま市長の方から御答弁申し上げましたように、現在の段階で県の方から内示がありました部分、またある程度確定した部分を今回補正という形で金額並びに借り入れ条件等の変更をお願いしているわけでございまして、今度まだ大部分の起債の申請額に対しまして県の方から許可予定額等の内示がございません。またその段階において審議をお願いする。こういうことを予定しております。

○四番（横溝 功君） 了解いたしました。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございますか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となつております議案第四十五号ないし第四十八号昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計補正予算は、お手もとに配付してあります議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第三、認定第一号ないし認定第七号昭和五十三年年度一般会計及び各特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一番神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 昭和五十三年年度一般会計の決算について御質問申し上げます。

まず、歳入の問題であります。歳入が予算を一億二千六百万ほど上回っているわけでありまして、したがって、その内訳についてお聞きしたいというふうに考えます。

まず、第九款使用料、手数料収入が一億六千五百万、予算を七百万上回っているわけでありまして、五十三年度に使用料あるいは手数料の値上げをしたものにはどのようなものがありますか、

そうして私は思うわけですが、予算を七百万も上回ったということについて、そのへんの原因、誘因について分析をされているかと思いますが、その内容をお聞かせ願いたいということであります。

次に、第十二款財産収入が三千八百万ほどあるわけですが、内訳を見ますと不動産の売却をしているわけでありまして。予算を見ますと非常に財産収入については実際の収入とはけたはずれの金額が予算に計上されているわけでありまして。どのような事情で不動産の売却をなされたのか、そのへんの事情についての御説明をお願いしたいということでありまして。

次に、第十三款の寄付金の問題であります。寄付金についても同じく予算を三百万ほどオーバーしているわけでありまして、この寄付金の内訳を見ますと、市道の舗装工事に伴う寄付金あるいは消防関係の寄付金等が計上されてあるわけでありまして、特に寄付というものでありますから、これは強制されるような性格のものではないというふうに考えるわけですが、現実には市道の舗装等に当たっては寄付というような形で地元の負担がないと舗装をされないというふうなお話を伺います。そこいらの基準なり、考え方なりというものがどのようなものなのか、お聞かせ願いたい。

それから、収入の未済の問題であります。第一款に戻りまして、特別土地保有税の収入未済が二千九百万というふうな多きになつてはいるわけでありまして。この部分については収入未済のまま収入が得られない、不能というふうな事態に立ち至るというふうなことが十分考えられるかと思ひます。このへんの内容について

の御説明をお願いしたいということがあります。

次に、歳出の面に移ります。歳出にあたりましては不用額が四千八百万ほど予算が執行されなかつたわけでございます。特に第三款民生費の内容であります。民生費の不用額が二千万、特にそのうち老人医療扶助が約千七百万というような不用額が残つておるわけです。そういうわけで老人医療扶助が大きく残つた問題このへんについてどのような要因でなされたのか、そしてこれについてどのようなことを考えておられるのか、御説明をお願いしたいということがあります。

次に、第二款であります。その中の市長交際費についてであります。三百五十万円という予算が組まれて、実際の支出も三百五十万円ということとびたり使われておるわけであります。これに比しまして議長さんの交際費は三万八千七百六十円の不用額を出しているわけであります。このような予算の性格からいいますけれども、びたり支出をされているわけであります。疑問を感じるものであります。

予算ということで、悪しき実績主義とでも申しますか、とにかく予算として計上されたものは使わなければ来年またもらえないというような、そういう悪しき実績主義とでもいうような考え方というものもあるかと思ひます。このへんについての御説明をお願いしたいというふうに考えます。

特にその中で、交際費の中で渡し切りの交際費こういったようなものはないのかあるのか、ここらへんについて説明をお願いしたい。あるいは五十三年度におきまして議員を招待して宴会とい

うような内容では何度ぐらいやつたのか、幾ら使つたのか、御説明をお願いしたいと思います。以上です。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 使用料、手数料の決算額が多かつた、その理由ということでございますが、使用料、手数料増加の主な内訳は、使用料については市民センター利用者が当初の見込みより大幅に増加したことが大きな理由であろうと思ひます。手数料についてははし尿処理料の増加によるものでございます。使用料、手数料の五十三年度中の値上げはございません。

財産収入でございますけれども、財産の売り払い収入については当初予定しなかつた那古大浜にございます明治大学の寮の敷地が売却できるようになつたためでございます。ちなみに売却面積は二千平米、金額は二千八百四十三万五千円でございます。

寄付金の問題でございますが、北条小学校に対する寄付金三百万は故計 岩尾氏よりの篤志寄付でございます。消防、道路に対する寄付は、これは任意寄付でございます。決して強制いたしたものではありません。

特別土地保有税の滞納状況でございますが、昭和五十三年度決算における特別土地保有税の滞納状況は五十三年度分については六件千七十七万七千五百四十四円、繰越分十七件千八百五十八万九千四百五十円となつております。

滞納の内容を見ますと、昭和四十八年当時の土地ブームにより不動産会社等が市内に土地を求め、その後の不況で倒産等により滞納になつているケースが多いわけでございます。しかしその中でも分納により納付している法人も数社あり、交渉している法人

もありますので、五十四年度末までには五〇％程度の徴収ができる見込みでございます。なお、倒産会社で不動産等のあるものについては差し押え処分を執行しておりますが、その実態に応じた処理をしていく所存でございます。

次に、老人医療費の不用額の問題でございますが、老人医療扶助費につきましては前年の実績を踏まえて予算計上をするわけでございますが、例年九月以降は季節的な要素により実支出額が伸びるということ等も考慮の上見込んでいたのでございますが、昨年は暖冬によりほとんど伸びが見られなかつたので、高額の不用額を出す結果となつたわけでございます。

市長交際費につきましては、先ほど冗費だというようなお言葉もございましたけれども、決して冗費ではございませんので、市政を、市の行政を円滑に実施するための言わば潤滑油でございますして、この支出にあたりましては常識的な範囲で良心的な運用を手かけてまいつたわけでございます。その内容につきましては事の性質上公表することをお許しをいただきたいと思ひます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君）　まず、寄付金の問題であります。市道の舗装については任意寄付ということで強制はないということでございますが、寄付を取らなくても市道の舗装はやつていただけるというふうに理解してよろしいですか、そのことについてお伺ひします。

○市長（半澤良一君）　道路の舗装につきましては、優先順位を決めまして実施をしていくつもりでございます。ですから、その優先順位を越えて、寄付をお持ちくださつてぜひやつてくだされいと

いうことになれば、それはまた一つのケースとして考えます。

○一番（神田守隆君）　交際費の問題についてですね。だいが答弁漏れがあるうかというふうに思ひわけであります。まず第一点は、いわゆる渡し切りの交際費というものは市長交際費にあつてはいいのかどうか。それから昨年ですね、議員を招待してという形で宴会ということはやつたのかやらないのか、やつたならば何回やつたのか、そのへんについて説明をお願いしたいということであります。

○市長公室長（汐崎政光君）　渡し切りという意味がよくわからないのでございますけれども、交際費も普通地方公共団体の支出しますものと同じような事務措置を経まして支出しております。ですから、可能な限りの領収書は徴しておりますし、その領収書を徴し得ない場合には、かわりまして市長ないしはそれにかわるべき者の印が必要、このように法の上ではなっておりますが、そういう例はございません、一応すべて領収書を徴しております。

議員さん方との懇談的な意味の会合はたしか二回程度あつたのではないかと思ひます。

○一番（神田守隆君）　私が渡し切りという言葉をつたわけですが、この問題についてそういうつたような領収書なり、そういう形で処理をされておるといふことで、そのことを信じたわけでありまして、びたり三百五十万というのはどうも納得、常識的に考えてそういうことはあり得るのだからかといふふうな気持を強く持つわけがあります。偶然そうなつたといふことなのか、あるいは何らかのそういう考え方でやられたのか、そこらへんのことを。

○市長公室長（汐崎政光君）　今年度市長交際費の不足が予想され

ておりますとおり、昨年度もすでに年度末には交際費使い切つちやつておりまして、最後の交際費は必要な金額をたしかまけてもらつてびつたりを精算をなした。そのように思つております。

○一番（神田守隆君） この内容についても詳しく知りたいわけでありますが、先ほど予算の問題で二百三十万について内容を御説明いただきましたけれども、この昨年度の問題について同じように説明をいただけますか。

○市長公室長（汐崎政光君） いわゆる交際費的なものでございますが、これが百三万八千八百五十円、それから慶弔費二十八万二千円これが八・一％でございますし、先ほど申しましたいわゆる交際費これが二九・五％、それから各種団体の行事に対する助成及び税金こういった種類のものが五十四万七千七百五十円一五・八％、それから諸会議の会費、それから出席者負担金等こういったものが九十八万四千三百三十二円二・〇％、広告、賛助金その他が六十五万八千七百八十円合せて一八・八％、以上でございます。

○一番（神田守隆君） 以上で、質問を終わります。

○議長（石井 正君） 次、四番議員横溝 功君。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 通告いたしました認定第一号一般会計歳入歳出決算について若干御質問いたします。

まず、歳入第一款でございますが、市税でございますが、監査報告によりますと、市税総体の徴収率は本年度五十三年度九四・八％であつたと、五十二年度は九五・九％であり、一・一％下回つておると報告がございます。市民税、固定資産税、軽自動車税、特別土地保有税、都市計画税こういった實際収納課において

取り扱うのはこれらの五つの税目でございまして、これは五十三年度九四・五四％であり、五十二年度は九五・二六％でございますので、〇・七二％下回つておりまして、監査報告の一・一％下回つたものよりも少ないわけでございます、これは結構なことではございます。

以上のことを踏まえまして、次のことをお聞きいたしたいと思つてまいっておりますが、第一点といたしまして、年々収納率が下りかまらずお伺いしたいと思ひます。

第二点目でございますが、このへんで収納率を落ちないようにしてもらいたいわけでございますが、でないとなめる者がばかを見るようでも困りますので、これ以上落ちないように私としては要望するわけでございますが、何かいい方法があるかどうかをお聞きいたしたいと思ひます。

次に、未納額が一億三千四百三十一万八千二百九十九円でございますが、そのうち市外分は幾らあるのかどうかおわかりになりますればお知らせ願ひたいと存じます。市税については以上でございます。

第十二款の土地売却収入でございますが、これは神田議員も質問がありまして、市長の答弁によつて明大の敷地が売れたということであつたわけでございますが、二千八百万という大きい額が突然売れたというようなことでございましょう。したがいまし、こういうのはやはり財源として更正すべきだと思ひますが、御所見をお伺ひいたします。

次に、歳出でございますが、第二款一項六目企画費十三節委託

料の海浜調査診断といいますが、まことに貴重なものがあり、この実行にあたりました市長に敬意を表する次第でございますが、調査結果を私も一応読んだわけでございますが、多岐にわたって検討され報告されております。私にとりましては十分傾聴に値するものがあるかと存じたわけでございますが、市におきましてもこのせつかくの診断でございしますが、この診断結果をいかに活用なさるおつもりかどうかをお伺いいたします。

次に、十四款予備費でございますが、五十二年度は百三万六千円が予備費充用されておるわけでございますが、五十三年度におきましては九百二十七万五千円と予算いっぱい、五十二年度よりも八倍強予備費充用が使われておるわけでございます。予備費充用御承知のように予見できないものであつて不可避的なもの、あるいは軽微なものというものに限定されると思ひます。果して予備費充用にあたりまして当該支出された金が見えなかつたかどうかについてお伺いするわけでございます。なんもかんも予算外支出だといつてやられたでは困るわけでございまして、御当局の意向をお伺いたすものでございます。

答弁によつて再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

。市長(半澤良一君) 横溝議員の御質問にお答えをいたします。

各種税金の収納状況についての御質問でございますけれども、徴収率が下つた原因ということでございますが、その原因にはいろいろ考えられるところもございすけれども、やはり根本的には経済不況等の影響を受け倒産等による大口滞納、たとえば特別土地保有税というたようなものが徴収率の低下に影響している

というふうに考えます。また徴収率を高めると申しますか、少なくともこのへんで低落の歯どめをかけるという御意見でございますが、まことにごもつとも御意見でございますして、市いたしましたけれども徴収率の低下の歯どめをかけるように努力をいたしましたして、その具体策と申されましたも、これといつて特に変わった策はないわけでございますけれども、従来実施しておりました自主納税の組織の拡充とか、郵便振替等の加入の促進とかそういったことを実施し、さらにまた納税月間といつたようなものを設けて納税意識を高めていく。そういう地道な活動以外にはなかるうかと思ひます。特に悪質滞納者に対しては税の徴収の公平を期する意味からも滞納処分をびしびし実施をいたしまして徴収率を高めたい。そんなふうに考えております。

それから、不動産の売り払い収入について、これを財源として使うべきではなかつたかという御意見でございましたが、これが入りましたあと当面これを財源として使うような仕事がございますのでしたので、このようになつたわけでございます。

それから、先ほど答弁漏れがありました。滞納額の市外分というところでございますが、これは総務部長の方からお答えをいたさせます。

総務管理費企画費委託料につきましては、これは御指摘のようにパシフィックコンサルタントに依頼しました委託料でございますが、御案内のとおり当市は気候あるいは地勢特に自然に恵まれて、海岸線の見直しということは観光面からも、住民のいこいの場としても将来計画の上でこの利用が課題であると考えまして、パシフィックコンサルタントに海浜開発基本構想をお願いしたと

ところでございまして、この報告は皆さん方にもお渡しいたしますとともに各関係機関に配布してございます。また内部でも報告書の提案を検討しておりますけれども、慎重に検討し、住民の理解と協力を得ながら、報告書にありますように実施可能のものから着手をしてみたいと考えております。

予備費につきましては、この充用額の大きなものの内訳を申し上げますと、総務費総務管理諸費については昭和五十二年度分老人保護費国庫補助金の超過交付分の返還金でございまして、従来翌年に返還しておりましたものを、その翌年に返還するといふことになりましたものでございます。

衛生費保健衛生費保健衛生総務費については、これは伝染病発生に伴う伝染病隔離病舎組合の分担金でございます。

さらに衛生費清掃費清掃総務費については、衛生センター建設に伴う関係者先進地視察旅費及びし尿処理場処理水の処分に關する環境衛生調査業務委託料でございます。いずれも地元等との交渉の過程の中で突発的に出てくるものでございます。

第四番目といたしまして、商工費観光費については房総線全通五十周年記念観光客誘致宣伝協議会宣伝費分担金でございまして以上四点とも急施を要する突発的に起こった事項でございまして急施を要する支出と申しても過言ではなかうと思つてございまして、います。そういう意味で予備費を充用いたしましたわけでございます。○総務部長（鈴木弘道君） 繰越分の市外分でございますが、金額は四千五百二十七万六千円ぐらいでございます。

。四番（横溝 功君） 再質問いたします。再質問というよりも市税の収納の低下の歯どめでございますが、非常に監査結果を見ま

しても居所不明というものがあつてございまして、現代社会におきましては居所不明というものは本来はあり得ないわけでございます。しかし実際問題としては出てくるわけなんでございまして、督促状を出して直ちに追跡調査していけば居所がわかるわけですよ。そういうのを年々やらないところに居所不明が出てくると思ひます。

そういうことでございまして、居所不明を直ちに追及して、居所不明が少しでもわかるようにしてもらいたいと思ひます。でないと、それが積み重なつてだれがやつたつて徴収率は年々落ちていくと思ひます。そういうことを思ひますので、総力をあげて取り組んでもらいたいと思ひますが、いかがな見解を持つておりますか。

○総務部長（鈴木弘道君） もちろん、税の徴収の公平というそういう意味においても滞納額を少なくするために、われわれはいろいろな方法でもつて徴収に努力しているわけでございます。その一つの理由として、居所不明というよりな事例が多々生ずるわけでございますが、お説のようになるべくそのような方向で努力して滞納額の少なくなるようにやつていきたいと思ひます。

。四番（横溝 功君） 了解いたしました。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で何か御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

ただいま議題となつております昭和五十三年度各会計決算については十人の委員をもつて構成する決算審査特別委員会を設置しこれに付託の上、閉会中の継続審査とすることにいたしましたと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第四条第一項の規定により、

三番議員 綱島 憲治君 四番議員 横溝 功君

七番議員 古賀礼四郎君 八番議員 石井 昌治君

一二番議員 栗原 一雄君 一七番議員 黒川 平治君

二〇番議員 石井 武敏君 二二番議員 藤田 益治君

二四番議員 和田 一郎君 二八番議員 安沢 徳順君

以上十人を指名したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて、ただいま指名いたしました十人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員の方々は、のちほどこの議場において正副委員長互選を行いますので、御了承を願ひます。

請願書の上程

議長(石井 正君) 日程第四、請願第三号請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願ひます。

(書記朗読)

議長(石井 正君) 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

議長(石井 正君) 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

(一三番議員近藤好雄君登壇)

一三番(近藤好雄君) 請願書、昭和三十九年に青年館制度が発足して以来、青年館活動は年々活発化していると同時に、青少年健全育成とあわせて地域社会のためにも大きく貢献され、その実績は高く評価されております。

地域コミュニティ活動の中心となる施設の場として、館山市また館山市青年館運営連絡協議会といたしまして、年一回の運動会についても運営費といたしまして年間八十五万円ぐらゐの特殊寄付をいただき大会を行っている次第でございます。

しかしながら、この運営維持管理にあつては自治会の財源も厳しく、対応に苦しい状況にあります。

条例によれば、青年館の市有財産に対し、維持管理費は地元負担という矛盾の中で今日まで行つてまいりましたが、その数も四十館に及び、まさに青年館も館山市の問題として取り上げなければならぬところになりました。建物も古いものなら十五年を過ぎ修理費をかんがみ御理解をいただき、特に御検討され地元負

担の軽減に御配慮いただきたく請願申し上げます。

○議長（石井 正君） 以上で、説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては、文教民生委員会に付託いたします。

延 会 午後二時二十八分延会

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明九月七日から九月十日まで委員会審査のため休会、次会は九月十一日午後一時開会といたします。

その議事は、議案第三十九号及び議案第四十一号ないし議案第四十八号に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案等の審議といたします。

この際申し上げます。

各議案についての討論通告の締め切りは九月十一日午前九時まででありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十九号ないし議案第四十八号

一、認定第一号ないし認定第七号

一、請願第三号

一、発言の取り消し

一、日程追加・議案第四十号撤回について

一、決算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任

